

6災害調査 課題名 新潟県湯沢町土樽雪崩調査

研究代表者	雪氷防災：佐藤篤司	実施期間	平成 17 年度
研究参加者	雪氷防災：石坂雅昭、特別研究員：平島寛行、新潟大災害研：和泉薫、河島克久、伊豫部勉		

[目 的]

2005 年 12 月 28 日午前 9 時 10 分頃、新潟県湯沢町土樽の土樽駅北側の斜面で大規模な雪崩が発生した。雪崩は駅北側にある荒沢山（1303 メートル）の中腹付近で発生し、魚野川を越えて県道土樽 - 越後中里停車場線を長さ約 200 メートルにわたってふさいだ。この雪崩に人が巻き込まれる被害はなかったものの、道路の通行止めにより集落が孤立し、電柱の倒壊により電線が切れ、17 戸で停電の被害に見舞われた。雪崩研究と雪崩対策に資することを目的とし、現場の積雪状況を調査した。

[実施内容]

12 月 28 日午後より雪崩発生現場に赴き、雪崩発生斜面及びデブリの視察を行った。また、デブリの堆積した地点から越後湯沢方面に県道土樽 - 越後中里停車場線沿いに約 1.5km ほど移動した平地において、積雪断面観測を実施した。

[成果と効果]

雪崩が発生した斜面を図 1 に示す。雪崩の発生区となった山の中腹は雪雲に覆われ、雪崩発生地点は現地調査では確認できなかった。雪崩の衝撃により倒壊した電柱の写真を図 2 に示す。積雪断面観測を行った様子を図 3 に、その結果を図 4 に示す。湯沢アメダスによると、25 日から 3 日間で積雪深が 60cm も増加していた。実際、1m 近く新雪の層があり、雪崩が起きやすい条件下にあった。

湯沢・土樽 '2005/12/28
積雪深 : 292 cm



図 1 雪崩が発生した斜面。魚野川をはさんで堆積したデブリの上から撮影。



図 2 雪崩の衝撃により倒壊した電柱

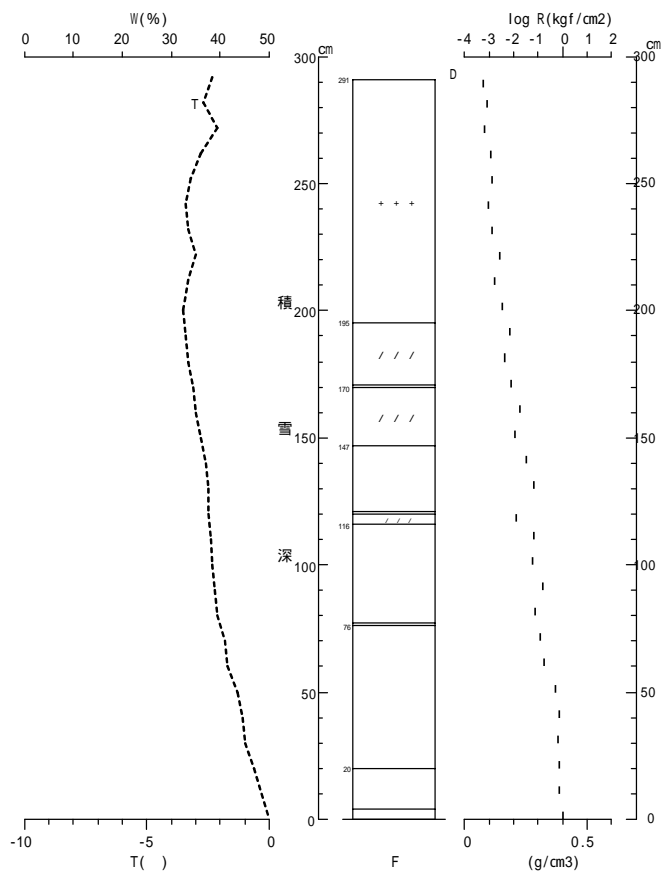


図 3 断面観測の結果左のグラフは雪温 T、右のグラフは密度 F を表す。